

海蔵地区の20年 地域コミュニティのできごと

平成9年度	【市制100周年記念事業】 ・エコクラブ「海蔵しぜんクラブ」発足（5月） ・海蔵マップ発刊（5月 海蔵地区社会福祉協議会、同地域社会づくり推進委員会、同市制100周年記念 事業推進委員会） ・堀川菖蒲園オープン行事（6月8日）：環境庁「身近な水辺環境再生事業」の補助金を受け、市が整備 ・公募により海蔵音頭を制作（8月1日） ・萬古焼ミニメント除幕式（10月18日 近鉄阿倉川駅前）
平成10年度	○山手中学校「地域クリーン大作戦」開始（現在は11月に実施）
平成11年度	○市主催市民総ぐるみ総合防災訓練実施（9月1日 海蔵川河川敷）
平成12年度	○海蔵地区地域団体事務局開設（7月17日 海蔵地区市民センター2階） ○阿倉川新町が大字東阿倉川から分離（1月16日 旧昭石グラウンド開発宅地）
平成13年度	○海蔵福祉の家開設（高齢者の交流施設 4月1日 西阿倉川1区地内）
平成14年度	○阿倉川新町自治会発足（4月1日） ○市の地域への補助金の見直しに伴い海蔵地区地域社会づくり推進委員会廃止（3月31日）
平成15年度	○海蔵地区連合自治会から、みゆヶ丘一丁目及び二丁目が退会し、大谷台地区連合自治会へ（4月1日） 地区社会福祉協議会等の組織も構成変更 ○海蔵地区防災会発足（8月1日）
平成17年度	○海蔵福祉の家が海蔵保育園旧園舎に移転（9月15日）
平成18年度	○海蔵セフティネット協議会発足（10月19日）
平成21年度	○海蔵第2学童保育所が海蔵小学校東の「風の家」2階に開所（4月1日）
平成22年度	○海蔵地区まちづくり構想策定委員会発足（5月10日）
平成24年度	○海蔵地区まちづくり構想を市長へ提出（5月25日） ○海蔵地区ホームページ開設
平成25年度	○かいぞう文庫（海蔵地区市民センター図書室内）設立40周年：「こんな本読んだよ」読書絵募集
平成26年度	○海蔵地区まちづくり構想を基礎とし、都市計画マスタープラン地域地区別構想【海蔵地区】を策定（10月21日） ○海蔵地区まちづくり構想・都市計画マスタープラン推進委員会（略称：海蔵地区都市マス委員会）発足（1月19日） ※これに合せて海蔵地区まちづくり構想策定委員会を廃止
平成27年度	○海蔵小学校敷地内の海蔵第1保育所に隣接し、第2学童保育所新築移転開所（9月1日）
平成28年度	○海蔵地区まちづくり協議会発足（12月12日）
平成29年度	○海蔵地区社会福祉協議会組織変更（6月1日） 地区連合運動会や地区文化祭を実施していた事業部が独立し、新組織の海蔵地区事業企画委員会発足 また、広報部が海蔵地区まちづくり協議会広報部に移管 ○海蔵野田みどりサロン発足（高齢者交流の場）（10月20日 野田公会所）

海蔵地区に移り住んで

平成21年に、鈴鹿市から松ヶ丘のウエリスパーク阿倉川へ転居しました。5人家族です。

市の中心市街地に近い新興住宅地で、パーク内には「景観・外構ルール」があって、住むには良さそうだと感じたから。また、駅や学校、病院、スーパーなど生活面の利便性が整っていたことから転居を決めました。同世代の方が多く、子ども達の年齢も近くて賑やかです。中秋の名月の日には、子供会の「お月見どろぼう」が行われ、玄関先のお菓子を求めて子ども達が行きかいます。ほぼ同じ時期の入居なので、互いに気遣い合え、住み心地も良好です。

小・中学校がマンモス校で、子どもが切磋琢磨して成長するには、ありがたいと思っています。文化祭や運動会、海蔵川桜まつりの写生、ニュースポーツ大会、グラウンドゴルフ大会、海蔵川清掃など、地域の行事に楽しく参加しています。これから、異世代の交流の場が増え、若い世代が発信する行事があると、もっと良いのではと思います。



末永町・本郷町の変遷

北は海蔵川、南は三滝川、東は四日市港、西は三滝川から海蔵川へ合流する三滝新川に囲まれた三角州の近鉄線以西に位置します。20年以上前は大雨が降れば、唯一のメイン道路である近鉄川原町駅南の東西に走る道路は水が溢れ、恥ずかしながら長靴で通勤したものです。当時の街並みの大半は、木造の古い家が続く、地区内の生活道路は狭くて「路地」と言った程度の道しかありませんでした。また、生桑方面から四日市駅や国道1号線へ抜けるには、三滝川の狭い堤防道路一本で、事故も起きやすい道でした。20数年前からやっと動き出した区画整理事業は、住民の思いとは懸け離れた場所に換地させられたり、補償の査定等色々な不満がありましたが、現在完成された街並みを見れば、昔と違い広いカラータイルの歩道と街路樹、交通の利便は各段に上がり、市道赤堀山城線の開通など四日市の発展に大きく寄与しています。



海蔵地区の20年 都市計画・行政施設のできごと

平成9年度	○末永・本郷土地区画整理事業進む（平成4年7月道路築造・住宅造成工事着手、完了：平成33年3月予定） ○【市制100周年記念事業】 地球市民四日市環境フォーラム海蔵分科会開催（10月18日 海蔵小学校体育館） ○海蔵幼稚園創立50周年式典開催《創立記念日 6月18日》（6月22日） ○山手中学校創立50周年式典開催《創立記念日 4月15日》（10月19日 四日市ドーム）
平成10年度	○三滝川の野田橋の架け替え竣工（11月）
平成11年度	○阿倉川交番が旧交番北側に新築移転（3月31日）
平成14年度	○山手中学校生徒 堀川浄化活動開始（3年生 菖蒲園付近の堀川にEM発酵液を散布）
平成15年度	○海蔵川の末広橋及び三滝川の堀木橋の架け替え、海蔵地区市民センター以南の市道赤堀山城線も竣工し開通（3月）
平成16年度	○海蔵保育園が西阿倉川2区地内の御厨飽良河神社隣接地から市道赤堀山城線沿いの新園舎へ移転（5月1日） ○四日市市消防団海蔵分団に新消防車配車（12月19日 分団詰所・車庫 海蔵地区市民センター敷地内）
平成17年度	○三滝川野田橋・久保田橋間の「三滝川ふるさとの川整備事業」による左岸整備完了
平成18年度	○国道一号 金場交差点から海蔵橋方面へ歩道設置工事及び電線共同溝地中化整備事業一部実施
平成19年度	○近鉄川原町駅付近連続立体交差事業工事着工（11月 県・市・近畿日本鉄道が工事協定締結、完成：平成32年3月予定） ○三重県燃料電池研究センター開設（5月10日 三重県工業研究所窯業研究室敷地内） ○市道阿倉川西富田線が山手中学校北側の交差点まで開通（9月）
平成24年度	○海蔵小学校児童数が市内1位（5月1日現在：831人）
平成26年度	○近鉄川原町駅下り線、高架へ切り替え・新高架駅舎使用開始（10月25日）
平成28年度	○山手中学校生徒数が市内1位（5月1日現在 694人） ○近鉄川原町駅上り線、高架へ切り替え・新高架駅舎使用開始（5月8日） 海蔵川～三滝川間の踏切解消 ○上野遺跡第3次発掘調査で上野1号墳等検出（現地調査期間12月1日～1月30日） 上野1号墳・上野遺跡現地説明会（1月14日）



海蔵地区人口等の 20年間の变化	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	総人口 (人)	平均年齢(歳)			0～14歳(人)			15～64歳(人)			65歳以上(人)		
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成9年10月1日現在 (対総人口割合)	3,999	5,714	5,663	11,377	38	41	40	925	873	1,798	4,042	3,835	7,877	747	955	1,702
平成29年10月1日現在 (対総人口割合)	5,889	6,847	6,908	13,755	42	46	44	1,002	949	1,951	4,520	4,205	8,725	1,325	1,754	3,079
		49.8%	50.2%					7.3%	6.9%	14.2%	32.9%	30.6%	63.4%	9.6%	12.8%	22.4%

児童・生徒数(人)の変化(各年度5月1日現在)



	平成9年度	平成14年度	平成19年度	平成24年度	平成29年度
海蔵小学校	666	616	704	831	743
山手中学校	666	578	561	645	681

(市教育委員会 教育便覧より)



新しい道(赤堀山城線)ができて…

新しい道ができた平成8年頃から、ランニングコースとして利用していました。歩道があり夜でも明るく安全なので、今でも多くの方がランニングしたりウォーキングしたりしています。私自身は、信号が多いことなどからランニングすることがなくなりましたが、今では、運動不足解消のために徒歩通勤で利用しています。市内諏訪町に勤務先があることから、徒歩でも30分超。程よい距離です。電車やバスでは、そう感じる事のない季節の移り変わりを感じつつ、集団登校の小学生の元気な姿、自転車通学の学生に、我が子の当時の姿を思い起こしたり、充実した通勤時間となっています。また、行きは家事から仕事モードへの切りかえ時間となっています。家事を考えながら歩き始め、会社に近づくにつれ、昨日の業務をふりかえり、今日の業務の段取りを考えるととても貴重な時間です。そして、帰りは逆に仕事モードから夕食メニューを考え家事モードへと…。

こんな風に充実した通勤タイムをすごせるのも、この新しい道ができたからだと大変嬉しく思っています。



海蔵しぜんクラブ誕生20年



生みの親から現在までバトンは続いて…

♥萬古焼の産地を象徴した阿倉川駅に立つ「萬古の塔」を眺めて当時に思いをはせました。地域の方々と立ち上げた「海蔵エコクラブ」は嬉しいことに今日まで子どもたちへの環境保全活動が続けられています。継続する大切さと共に持続する大変さはその数倍あることを痛感しています。心から感謝申し上げ今後の活動を楽しみにしています。(元海蔵地区市民センター社会教育指導員 現四日市大学エネルギー環境教育研究会 事務局長：矢口さん)
◆現在部員は24名。毎年小学校を通じて部員を募集。主な活動内容は恒例行事として6・9月の海蔵川の水生生物調査とごみ拾い。8月には少年自然の家に一泊キャンプ。今は女子部員が多く、節水も意識したエコクッキングでクレープ作りや、県の環境学習情報センターも活用して苔玉や巣箱作りも実施。秋の自然観察で、どんぐりクッキーも作りました。(海蔵しぜんクラブ代表：加藤さん)
♣(インタビューを終えて) どんぐりが美味しいなんてびっくり!こうして年月を重ねて、部員の保護者やお世話頂く役員さんの努力で、子どもたちの環境に対する興味や活動は今日まできっちり受け継がれています。(広報部員)